

I - A - 14

HMG療法中の夏バテ卵巣機能不全不妊症に対する清暑益気湯療法

医療法人 假野クリニック

○ 假野隆司、古殿正子

【目 的】夏季に卵胞・黄体機能が低下する HMG — 随証漢方併用療法中の卵巣機能不全不妊症に対する清暑益気湯の有効性を検討すること。

【対 象】1990年7・8月に卵胞機能低下が確認され、1991年7月以前から随証漢方療法・HMG療法を行い、夏バテ症状（暑気あたり、暑さによる食欲不振・下痢・全身倦怠・夏やせ）が認められた29歳から42歳までの10例に清暑益気湯（ツムラ）7.5 g/day を併用し、1990年8月と1991年7月・8月の卵胞・黄体機能を内分泌学的、超音波診断学的に比較検討した。

【結 果】1991年7月の卵巣機能不全型の内訳は卵胞黄体機能不全症7例、無排卵周期症2例、第Ⅰ度無月経例であった。「証」の分布は9例が加味逍遙散証、1例は人参湯証であった、清暑益気湯によって1例で妊娠が成立、無排卵の3例中2例が排卵周期となった。直接的卵巣機能の指標としてのBBT-3～0 Day あるいはLHカラーが初めて陽性になった日の血中 estradiol値は清暑益気湯によって有意（ $P<0.05$ ）に増加した。卵胞数・首席卵胞最大径は増加ないし増大したが有意ではなかった。BBT+5～+8 Day の血中 progesterone値は3倍近く増加したが有意ではなかった。間接的卵巣機能としての子宮内膜厚・頸管粘液量は増大ないし増加したがいずれも有意ではなかった。

【結 論】清暑益気湯は夏バテ卵巣機能不妊症に対してHMG をしのぐ卵巣機能改善作用を有する。その有効機序は気温・湿度・気圧への順応を計るなかで、消化吸收の改善、脱水症状の予防ないし改善、骨盤循環の改善を通じて間接的に間脳 — 視床下部 — 下垂体 — 卵巣系を改善するためと考えられた。